

富谷市立富ヶ丘小学校

I 学校所在地域の災害特性および地域連携に係る現状等

(1) 学校所在地域の災害特性

① 自然的条件

段丘地を切り土や盛り土により造成した地盤（地質は偽層砂岩・礫質砂岩。仙台泉区との境界部は凝灰質シルト岩及び凝灰岩）である。また、市内に断層は認められない。6月～9月は梅雨及び台風が接近する季節となるため、月間降水量が120mmを超えることもある。特に9月は200mm前後の降水量が見られ、この時期は特に雨が浸透し地盤が弱くなることが予想されるため、注意が必要である。

② 社会的条件

就業者のほとんどが働く場を他市町村に依存しているため、昼間における15～64歳の生産年齢が減少することを考慮すると、昼間の災害時においては災害弱者となり得る0～14歳の年少人口や65歳以上の高齢人口の割合が高くなるものと考えられる。

最寄りの警察機関は大和警察署成田交番（本校より約3km）、消防機関は黒川地域行政事務組合消防本部富谷消防署（同約400m）、行政機関は富谷市役所富ヶ丘出張所（同約1km）である。

③ 災害特性

「富谷市地震防災マップ（揺れやすさマップ）」によると、1978年に発生した宮城県沖地震と同じ規模の地震（海溝型・M7.6単独型及びM8連動型）が発生した場合、富ヶ丘地区・鷹乃杜地区では震度6弱、上桜木地区では震度5強の揺れが想定されている。さらに、「長町-利府断層帯の地震（M7.1）」が発生した場合、富ヶ丘地区・鷹乃杜地区に加え、上桜木地区も震度6弱の揺れが想定されている。

また、本校東側に隣接する水道局用地（仙台市水道局管財課）のり面と本校敷地の一部は、それぞれ土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に指定されている。加えて、富ヶ丘三丁目・鷹乃杜三丁目・鷹乃杜四丁目に、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域がある。



(2) 地域連携に係る現状（R5.4月現在）

富谷市では、毎年10月後半の日曜日に、「富谷市総合防災訓練」を行っており、市内全町内会が参加している。訓練内容は、各町内会計画による安否確認や災害状況を災害対策本部へ画像送信する「共通訓練（全町内会対象）」と、富谷スポーツセンターにおいて避難所開設や要配慮者の避難誘導訓練等を行う「エリア訓練（抽出町内会）」である。

本校学区内の4地区（富ヶ丘南部地区、富ヶ丘北部地区、鷹乃杜地区、上桜木地区）のうち、2地区（富ヶ丘南部地区、上桜木地区）は、市総合防災訓練の共通訓練を終えた後、独自の計画で指定避難所である本校体育館を使用して、二次避難を想定した避難民受入訓練等を行っている。

II 取組状況

1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

(1) 第1回引き渡し訓練の実施（来校：地区町内会長，市防災安全課，市教育委員会）

第1回引き渡し訓練に，本校学区内の町内会長に案内を出し，視察していただいた。また，実施後の振り返りでは，来校者から見た引き渡し訓練の感想や今後に向けた改善点等を話し合った。



(2) 市総合防災訓練への児童参加

毎年，富谷市総合防災訓練において，富谷市内各地区が安否確認や防災訓練等を行ってきた。今年度から，本校児童も各地区の一次避難所への避難を保護者と共に行い，自らの一次避難所に実際に足を運ぶ訓練を行った。また，各地区の進行により，バケツリレーやα米の炊き出し訓練，マイタイムラインの作成と防災かるた等の防災活動に取り組んだ。

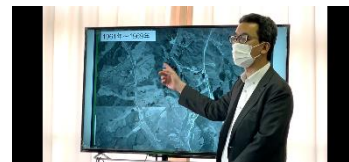


2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

(1) 校内職員研修会の開催（地区町内会長参加）

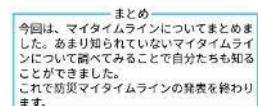
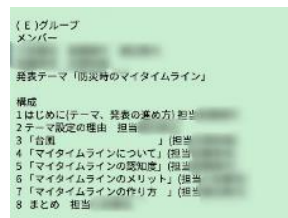
上述の第1回引き渡し訓練後には，学校防災アドバイザーから本校学区の災害特性についてご講話をいただいた。本校学区はもともと山だった場所を切り開いて作られた団地であり，基本的には地震等の揺れには強い団地である。しかし，過去にはため池が存在していたり，山間部の「谷」に当たる部分が存在したりするなど，学区内には地震の揺れには必ずしも強いとはいえない場所も見られた。

この研修会には町内会長も参加し，該当地域の災害特性について教職員と地域で情報を共有することができた。



(2) 防災発表会の開催

12月の学習参観を防災発表会（3年生以上）とし，保護者や町内会長，市教育委員会，各学年で招聘した外部講師等へ向けて，今年度の防災学習での学びをまとめ，グループ発表を行った。



3) 防災教育だよりの発行

毎月1回，本校の防災教育の取組をまとめ，発行した。保護者や地域の方にも見ていただけるよう，メール配信やホームページ上にアップするなどし，防災教育の様子や避難訓練の保護者アンケート結果などを発信し，保護者や地域の方々と共有することができた。

3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

(1) 防災マニュアルの読み合わせ

4月当初の職員会議終了後、全教職員で防災マニュアルの読み合わせを行った。特に、第1回引き渡し訓練や地震・火災発生時の避難経路と避難方法について、詳細を確認することができた。

(2) 学区内危険箇所現場確認

「富谷市 洪水・土砂災害 ハザードマップ」を活用し、本校学区内の災害危険箇所を全員で確認した。土砂災害に指定されている場所が数ヶ所存在し、現場を実際に見ることで、のり面の傾斜の具合や、その他安全面で児童に注意喚起が必要な場所も確認することができた。



(3) 学校防災アドバイザーからの指導（東北大学准教授柴山寛明氏・宮城教育大学講師林田由那氏）

① 5月1日（月）第1回職員研修会（地震想定避難訓練・引き渡し訓練を振り返って）

- 避難訓練については、地震発生を想定した避難経路や避難時の教職員の配置、避難後の教職員の立ち位置、児童への指導（机の中に入ったときの姿勢、上着を閉めること等）についてご指導をいただいた。
- 引き渡し訓練については、参加者の訓練に対する意識や保護者の引き受け経路、スクリーニング（保護者の身分確認）の大切さなどについてご指導いただいた。
- その他、上述「2（1）」に示したような本校学区の災害特性についてご講話をいただいた。

② 6月16日（金）第2回職員研修会（引き渡し訓練の反省と次回の訓練へ向けて）

- 次年度の訓練に向け、保護者のルートや児童が待機する向き、併設する利府支援学校富谷校も含めた大まかな位置関係などを全教職員で協議した。また、今年度の第2回引き渡し訓練（校舎内引き渡し想定）の具体的な動きも確認できた。
- 学校アドバイザーからは、各協議内容に関してご助言をいただいた他、様々な災害用アイテムをご紹介いただき、授業作りを考える上での大きなヒントをいただいた。



③ 8月23日（水）第2回全校授業研に向けての事前検討会

- 第2学年の提供授業「防災持ち出しバッグを考えよう」の事前検討会を行った。必要なアイテムを選ぶ数や、各児童の家族構成等によって一人一人が考える内容が変わってくることなどを意図して授業を組み立てること等について、ご指導をいただいた。

④ 9月6日（水）第2回全校授業研リフレクション

- 上述第2学年の提供授業「防災持ち出しバッグを考えよう」の授業参観とリフレクションを行い、ご指導をいただいた。それぞれの家庭環境に合わせた持ち出し袋を児童が考えている姿や、事前検討会を受けて授業者が変更した点等が効果的だったことなどの講評をいただいた。
- 文部科学省で発行している刊行物「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」「実践的な防災教育の手引き」等をご紹介いただいた他、「明るく・楽しく・気軽に取り組める防災教育」についてもご説明いただいた。

⑤ 9月6日（水）指導主事学校訪問提供授業に向けての事前検討会

- 第5学年が提供する防災授業「私たちにできること（総合）」の事前検討会を行った。ローリングストックの大切さをねらいとする授業に、乾パンの試食を導入することとした。味を変

化させてさらに美味しく食べられるようにするなど、積極的なローリングストックを児童が考えられるように授業作りを行った。

- ・ 富谷市防災安全課にインタビューすることも決まり、導入で映像を流すことで児童の防災意識を高め、本時への意欲付けとした。

⑥ 11月17日（金）第3回職員研修会（火災想定避難訓練・引き渡し訓練を振り返って）

- ・ 今回の避難訓練は、これまでのマニュアルを見直して、現実には起こりうる想定での訓練を行った（火災発生場所付近の学級は直ちに避難する、けが人児童の想定を行う等）。初期消火方法について、複数人で対応する必要があることや、消火担当者本人は必ず避難経路を確保した上で初期消火に当たること等のご指導をいただいた。
- ・ 引き渡し訓練については、前回の反省を改善できた点と、今後さらに改善すべき点についてご指導をいただいた。具体的な動きを考えながら教職員が共通理解することができた。



(4) 11月17日（金）緊急事態を想定した避難訓練の実施

第3回避難訓練（火災想定）を3校時に行うに当たり、直前の業間休みに学級担任は職員室でくじを引き、開封をしないまま各教室へ戻った。火災発生時刻直前の校内放送「担任の先生は、くじの内容を見てください。」という合図と共にくじの中身を確認した。

くじの内容は、「足を骨折している児童1名」「火災発生に驚いてしまって動けなくなる児童1名」「特に無し」など、各学年に1名ずつ、通常非難ができない児童（ビブスを着用させる）がいるケースを想定した訓練を行った。

これまでの避難訓練とは違い、廊下で担任同士が「1組、全員無事です。」「児童1名が動けない状態です。私は担いで最後尾をいきますので、〇〇先生は先頭をお願いします。」等の声を掛け合うなどし、その場で判断を必要とする場面での対応をしながら訓練を行った。

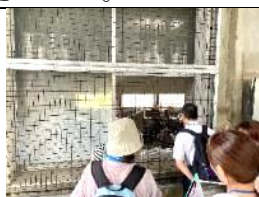
(5) 震災遺構石巻市立門脇小学校視察（8月1日（火））

全教職員で震災遺構石巻市立門脇小学校を視察した。東日本大震災発生当時の門脇小学校長鈴木洋子先生にご案内いただき、地震発生から避難、常日頃から大切にしておくべきことなどを丁寧にご指導いただいた。

参加した本校教職員の感想（一部）は以下である。

- ・ 当時の状況をそのまま伝えてくれる震災遺構を自分の目で見ることは、宮城県の教員として大切な事であると思います。どの学校に勤務したとしても、子供の命を守るために最善と思う方法を、より具体的に考える一助となると考えます。
- ・ 鈴木洋子先生の話が胸に響きました。普段学校の廊下を走っている児童を注意している自分と、自分を含め学校全体でまだまだ子供たちの行動の調整（廊下を静かに歩く）が徹底されていない現状に対し、「このままではだめだな。」「情熱を持って伝え続けなければいけないな。」と強く感じました。「クラスの中で授業がしっかりできる、学校が整然と成り立つというのは、日常の生活がきちんとしていればこそなんです。」という鈴木先生のお言葉。私たちも普段から避難訓練を真剣に行っているけれども、それ以上の真剣さを子供たちにも伝え、感じる時間を作っていきたいと思いました。
- ・ 大川小学校や荒浜小学校には行ったことがありますが、門脇小学校は初めて見学しました。

門脇小学校の第5次避難までのその場での教員の迷いや判断を詳しく知れて大変勉強になりました。また、鈴木洋子校長先生のお話が大変分かりやすく、「自分ならその場で何ができるだろう」と考えることができました。



4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

(1) 震災遺構仙台市立荒浜小学校訪問（6月30日（金）・6年生）

6年生は震災後に生まれた児童であり、保護者や教師から東日本大震災のことを聞いたり、テレビ等で映像を見たりしてはいるが、経験はしていない世代である。実際の現場から学ぶことは大きいと考え、本見学を計画・実施した。

以下は、6年生がまとめた感想の一部である。

- ・ 私が見た映像に、「戦争のようにこの震災も体験した人がいなくなってしまう」ということを聞いたときは、びっくりしました。これから私たちが聞いたことをまた伝えることを続けていくことが、私たちにできることだと思います。
- ・ 津波や地震が来ると、大切なもの、大切な人たちを失ってしまう危険があるということを知り、改めて知りました。内陸部だからと油断をしてはいけないということも学びました。
- ・ 揺れが3分間も続いたことと、津波が2階まで来たことを知り、とても驚きました。また、320人も避難をしたのに、全員の命を助けられた荒浜小学校はとてもすごいと思いました。カーテンを毛布代わりに使うなど、私たちが普段から対策をすべきだと思ったので、準備しようと思いました。災害は他人事ではないので、3月11日のことを次の世代に伝えていこうと思いました。



(2) カリキュラム・マネジメントによる防災教育の実践

- ① 1年生（生活）： 校舎内外の防災・安全表示や装置を確かめたり、公民館を訪れて避難所としての機能（大ホールや和室の活用、防災備蓄倉庫等）について職員の方から講話をいただいたりした。



- ② 2年生（生活）： 災害時、避難所に持ち出す「非常持出袋」の中身を考えた。袋の中に5つまで入れるという制限を設けたことで、児童は自分や家族が必要と考えられる物を精選していた。



また、「まちたんけん」の学習で、東日本大震災のことについてインタビューをし、自分たちが住む街の災害状況や人々の対応・努力・協働等について知ることができた。

- ③ 3年生（総合）： 富谷市中心部では、東日本大震災でどのような被害があり、人々はどのように震災を乗り越えてきたのか、富谷市中心部の商店街にインタビューした。また、名取市立不二が丘小学校長荒明聖氏（震災当時東松島市立大曲小学校教頭）をゲストティーチャーとして招聘し、地震や津波から身を守ることにについて講話をいただいた。



- ④ 4年生（総合）： 東日本大震災当時の状況について、富谷市教育委員会教育専門員渡辺孝男氏（震災当時山元町立山下第二小学校長）、白木敏夫氏（富ヶ丘地区住民）、門間とも子氏（鷹乃杜地区町内会長）をゲストティーチャーとして招聘し、講話をいただいた。



また、東北学院大学教授伊藤晶文氏からの情報提供のもと、理科「流れる水の働き」の学習の発展学習として、土砂崩れの模擬実験を行った。土砂崩

れが起こる際の予兆等を児童自身が実験を通して学ぶことができた。さらに、富谷市総務部防災安全課長星英樹氏と危機管理監高橋康浩氏をゲストティーチャーとして招聘し、本校防災備蓄倉庫の中身について直接ご指導を賜った。

- ⑤ 5年生（総合）： 東日本大震災当時の本校の災害状況や、児童・教職員の対応等について、公益財団法人仙台まち・ひと交流財団川前児童館職員三浦由紀夫氏（元本校職員）をゲストティーチャーとして招聘し、講話を賜った。また、上述の富谷市総務部防災安全課の職員から、防災備蓄倉庫内の説明と、本市での災害時の対応やローリングストック、市内外の近隣企業等との災害協定等についてご指導をいただいた。



家庭科での学び等と含めながら、ローリングストックや避難所での生活等、児童が探究活動を行い、学びを深めた。

- ⑥ 6年生（総合）： 災害時には全てのライフラインがストップし、生活が困難になることを理解した上で、非常持ち出し袋の中身を考えた。児童は各自の考えを共有した上で、自分たちが実際に避難生活を送ることを想定しながら真剣に取り組むことができた。そして、その学びを踏まえ、上述（4（1））のとおり、震災遺構仙台市立荒浜小学校へ訪問を通して、自然災害の大きさと防災意識を高めることの大切さ、命の尊さを学んだ。



また、グループごとに「地震発生のメカニズム」「避難所での健康被害を防ぐために」等のテーマを設け、探究活動に取り組んだ。

- ⑦ 特別支援（生単）： 児童の実態に応じた単元「防災ブックを作ろう」を設定し、実践を行った。各訓練の様子をまとめた「防災パン」を保護者と共に作ったりするなどし、保護者と一体になった防災学習に取り組んだ。また、自らの防災意識を可視化するための児童アンケートをページに差し込んで実践前後で比較できるような工夫も盛り込んだ「防災ブック」を作成した。



（3）防災発表会（12月8日（金）・3～6年生）

12月の学習参観日には、児童がこれまでの学びを保護者やゲストティーチャー、地域住民等に対して発表する「防災発表会」を行った。自分たちの学びを整理し、来校者と共有することで、災害や防災に関する理解を深めたと同時に、表現力を育成することができた。

（4）業前時間の防災タイムと業間時間の地震想定訓練

本校では、以前から毎月一回、業前時間に「防災タイム」を設定し、季節や今日的課題、世間の事件等に合わせた防災・防犯教育を行ってきた。今年度からは毎月の計画を立て、災害のみならず、不審者対応等も含めた指導を行った。

また、今年度からの試みとして、業間時間中の地震想定訓練を行った。児童が遊んでいる最中に緊急地震速報が発報する想定で行い、校庭で遊んでいる児童や校舎から離れて身を守る行動をとったり、廊下にいる児童は周りを確認しながら身を低くしたりするなど、その時々状況を考えて行動する姿が見られた。

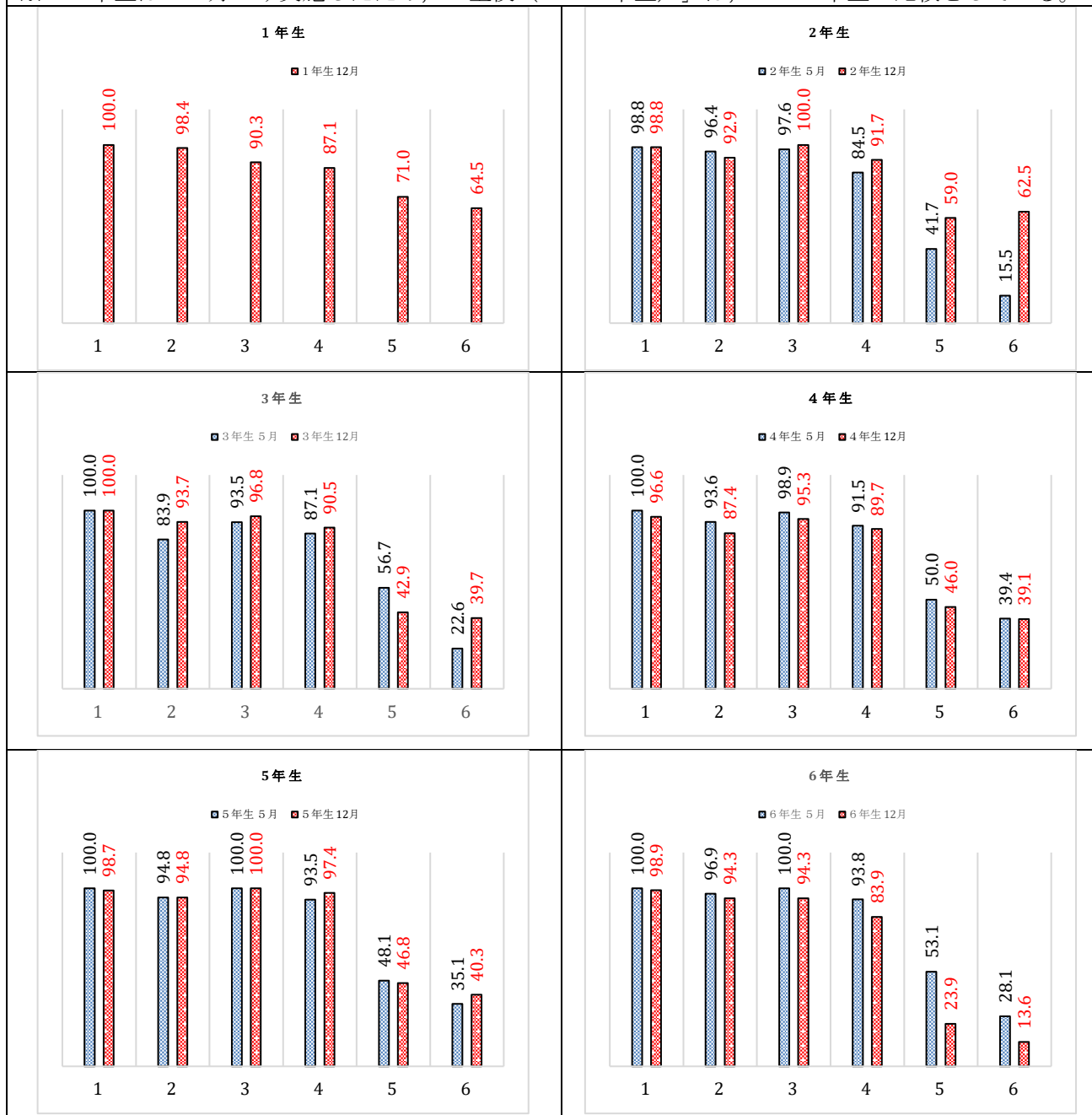
※ 4 - 2 (本校独自項目) 児童アンケート (結果と考察)

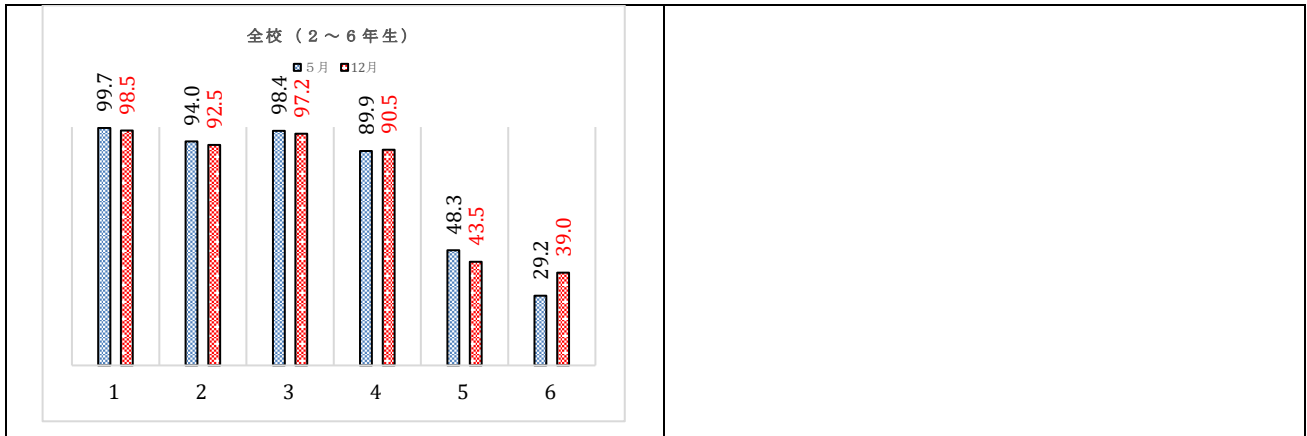
【設問】

- 1 自分や家族、友達の命は大切だと思いますか。
- 2 いつも、自分の体や命を大切にしている行動していますか。
- 3 学校で災害が起きた時、自分がどのように行動すべきか、分かっていますか。
- 4 学校以外で災害が起きた時、自分がどのように行動すべきか、分かっていますか。
- 5 災害が起きた時、自分はどのように行動すべきか、家族と話しますか。
- 6 災害が起きた時、地域の方々とどのように行動すべきか、家族と話しますか。

【備考】

- ※ アンケートは、全設問を4件法で行った。
- ※ 数値は、各設問の肯定的回答「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計を表している。
- ※ 1年生は12月のみ実施したため、「全校(2～6年生)」は、2～6年生の比較としている。





【考察と今後に向けて】

- ・ 設問1～4に関しては、高い数値を示している。しかし、設問1・2に関しては、防災教育のみならず、道徳科をはじめとする全教育活動で高め、100%を目指していきたい。
- ・ 設問3・4に関しては、上学年を中心に数値が低下している。この一年で様々な想定での訓練を経験し、これまでの自らの行動について内省しての結果とも考えられる。
- ・ 設問5・6については、授業で活用したワークシートを自宅に持ち帰り、保護者からの感想記入欄を設けた2年生の数値上昇が顕著である。防災については、児童が家族と日常会話の中で話題にすることが大切であり、学校と家庭が連携する視点を持つことが大切であると考えられる。

III 取り組みを通じた成果（○）と課題（・） ※ 研究目標は、校内研究3つの目標

（1）研究目標1：防災意識を高める防災教育の実践を通して、災害発生時に「生きる」「生き抜く」ための判断・行動を取り、適切・迅速に行動できる知識・技能を身に付け、自らの命を大切にし、共に助け合う児童を育成する。

- カリキュラム・マネジメントを行い、生活科及び総合的な学習の時間に防災教育を位置付け、各学年で様々な実践・提案授業を実施した。
- 全校授業研で防災学習を提供し合い、「児童が自分事として捉えさせることの重要性」「地域の災害特性に向き合うこと」などを改めて確認することができた。
- 校外防災学習で震災遺構仙台市立荒浜小学校へ赴き、自然の驚異と防災の大切さを学んだ（6年生）。
 - ・ 今年度は、カリキュラム上での縦のつながりが見えないことが課題として挙げられる。令和6年度は、系統的な指導計画と実践を重ね、令和6年度以降も継続していける防災教育カリキュラムの作成を行う必要がある。
 - ・ 令和6年度は第5・6学年それぞれで校外での防災学習を行えるよう、カリキュラム編成を行う。

（2）研究目標2：教員の災害時対応能力の向上と、災害時の校内体制を整備する。

- 防災マニュアルや避難訓練、引き渡し訓練の経路などの見直しと変更を行い、より安全で実際の災害時を想定したものとなった。
- 併設する利府支援学校富谷校との合同避難訓練を実施するなど、連携を図りながらPDCAサイクルで取り組んだ（令和6年度は利府支援学校富谷校と合同で引き渡し訓練を行う予定）。
- 夏休みの職員研修では、教職員全員で震災遺構石巻市立門脇小学校へ赴き、改めて児童の命を守るための防災教育について思いを強くした。
 - ・ 学校防災アドバイザーの指導の下、防災教育及び防災組織の更なる向上を目指す必要がある（保護者身分確認、引き渡し方法等）。
 - ・ 保護者アンケートから、引き渡し時の来校経路や身分確認について納得が得られていない部分があることが分かった。次年度の取組（利府支援学校富谷校との共同開催等）を通して、理解と協力を呼び掛ける。
 - ・ 令和6年度は、他の震災遺構等の見学を職員研修に位置付けていきたい。

(3) 研究目標3：地域と連携した防災基盤を組織し、運営の基礎を作る。

- 引き渡し訓練には、本校学区の町内会長が来校し、訓練の様子を共有すると共に、学校防災アドバイザーからの職員研修にも参加した。
- 富谷市総合防災訓練に全校児童も参加し、各自の一次避難所を確認したり、各地区の訓練に参加したりすることができた。
 - ・ 本事業が「地域連携型」であることを今後も大切にし、地域との結び付きをさらに強め、地域と学校が協働して児童の命を守ると共に、災害時に適切に行動できる児童を育成していきたい。
 - ・ 富谷市総合防災訓練の内容については、今後の継続した取組に向けて学校と地区が連携を深め、地域の防災活動の深まりを求めていく。
 - ・ 中学校区5小中学校が連携した引き渡し訓練を令和7年度に実施できるよう計画する。